



港区の小学校

港区内を通学区域とする最初の小学校が設置されたのは、明治6(1873)年3月のことでした。その小学校は、当時、九条村(現在の西区九条周辺)にあり、「第三大学区大阪府管内第三中学区西成郡第二小区第一番小学校」(現在の西区九条東小学校の前身)という長い名前の学校でした。

その後、明治7(1874)年9月には、湊屋新田(現在の弁天ふ頭～安治川内周辺)に「西成郡第二小区第三番小学校」、さらに、明治8(1875)年9月には、市岡新田(現在の南市岡、市岡周辺)に「第七番小学校」が設置されました。第七番小学校は、現在の市岡小学校の前身です。

大正から昭和にかけての港区の発展に伴い、戦前には区内の小学校は20校を数えるに至りました。しかし、昭和20(1945)年3月14日と6月1日の空襲によってほとんどの校舎が焼失し、終戦時には、本市岡(昭和23年市岡と改称)、磯路、三先のわずか3校が残ったにすぎませんでした。

戦後、港区の復興に伴い児童数が増加したため、小学校の増設等に懸命の努力が続けられ、八幡屋(昭和25年)、波除(昭和27年)、田中(昭和28年)、築港(昭和28年)、南市岡(昭和33年)、港晴(昭和36年)、弁天(昭和45年)、池島(昭和50年)の各小学校が「再開」や分離再編等によって開校しました。なお、「小学校」という呼び名が使われるようになったのは、昭和22(1947)年4月からです。それ以前は「国民学校」と言われ、昭和16(1941)年以前は「尋常(高等)小学校」と言われていました。

現在、区内には11の小学校があります。次号からは、各小学校の歴史やエピソードなどについて、順番に紹介していきます。

